

4

(4) 各地區(原木横波)の
おける米軍の進駐關係
(第一卷三編)

5

(6)
英蘇中國軍の進駐關係

A:1-0-0-2

英
海
軍
進
駐

BRITISH FORCES TO OCCUPY ADDITIONAL AREAS IN JAPAN

Plans for British Commonwealth Occupation Forces to take over more areas in Japan have now been completed, Lt. Gen. John Northcott, Commander-in-Chief of the British Forces, announced today.

Now areas to be taken over from United States Forces are the Island of Shikoku and the Prefectures of Okayama and Tottori. They will be occupied by the newly-arrived British-Indian Division, Tottori and Shikoku by mid-May and Okayama early in June.

Three prefectures at the southwestern end of Honshu--Hiroshima, Yamaguchi and Shimane-- have already been occupied by BCOF troops. Of the new area to be occupied, Okayama and Tottori adjoin on the east the area already under British control, and Shikoku, one of the great rice-growing regions of Japan, lies to the south.

The total population of the areas being added to the BCOF occupation territory is close to six million.

With the completion of the new occupation, the British Commonwealth Occupation Forces will be stationed as follows:

Hq, BCOF, Etajima Island; British Commonwealth Base, Kure; 9th New Zealand Brigade, Yamaguchi; 34th Australian Brigade, Hiroshima (with one battalion detached at Tokyo); Hq, British-Indian Division, Okayama; 7th Light Cavalry, Okayama; 2/5 Royal Gurkha Rifles, Okayama (detached from the 268th Indian Brigade); Hq, 5th British Brigade, Kochi, Shikoku; 2nd Battalion, Royal Welch Fusiliers, Shikoku; 1st Battalion, Queen's Own Cameron Highlanders, Shikoku; 2nd Battalion, Dorset Regiment, Shimane and Tottori; 1st Mahratta Light Infantry, Shimane and Tottori.

It is planned that disposition of the British troops will be changed later in the year so as to vary the interests and the lives of the men.

荒藤原

34

212.0.4

昭和二〇

平

札 十一月十九日一〇〇時
平 十九日一四〇時

兒玉總裁

石井事務局長

給札第四八號

(英蘇軍進駐ニ關スル件)

井口總務部長へ

英軍、蘇軍進駐ノ時期及場所判明次第電報請フ

(了)

外務省

D-2, 0-5A

昭和二〇

一一三

平

礼院
本告

十二月十日一二〇
十日一五〇〇

連

元玉 綴

(録年ノ進紙ニ歸スル件)

石井 事務局長

新札第八七號

新札第八七號)レハ明春手々北滿進北方ノ諸島陸ニ録草進紙トノコ
トナルカ旨事務局長トシテハ取入ノ決心等一ナルニ付同許願ニ
其ノ部後報アリ段(了)



記帳

一部

(分類A'1.0.0.2)

電	信	案	外	務	省
海軍上陸部、屋橋下ト報ジ居リ					

電 信 案	外 務 省	貴電ノ八七号ニ関シ 本日附リ下連係中 蘇聯軍ノ進取ノ記事ヲ報ジ居 本日付 蘇聯軍ノ進取ノ記事ヲ報ジ居 本日付 蘇聯軍ノ進取ノ記事ヲ報ジ居 本日付	電送第 6570	主管 経理部長 主任 経理部長
			日 月 日 時 分 秒 2 月 12 日 6 時 0 分	件 名 北海道札幌 石井中務部長 蘇軍ノ進取ニ関スル件
		第 三 五 号	昭和二十年十二月十一日起算 日 三	

電信寫

91004

昭和二〇

十一月

二十一日

本省

十二月二十五日

二十六日

二十七日

二十八日

二十九日

送一

元玉總教

第二五號 (主急)

(英豪軍進駐ニ關スル件)

本第二十四師團司令部ハ松山ヨリ岡山ニ移駐シ吳地區本第四十一師團歸還ノ後ハ英豪軍ノ進駐略々確實ト認メラレ岡山ニ退給候
 備設道ノ必要アル處當事務局ヨリ人員ヲ割クコトハ不可能ナルニ
 付向地へノ駐在員ハ司令部進駐初期ニ於ケル扨衝ニ間ニ台ヲ派貴
 万ヨリ派遣相成度
 京都、松山事務局へ轉電セリ

服亂事務局長

尾

記帳

外務省

發信用執務用											
主信											
附	甲										
	乙										
屬	丙										
	丁										
備考											

A:1.0.0.2

公 信 案	外 務 省	名 件	先付送寫	名人信受	管 主 總務部長 了 任 才一深長 昭和廿一年一月三日 起草	文 書 課 發 送 日 昭和廿一年壹月 四日	淨 書	正 校 (原 稿)	(淨 書)
			名 件 錄 記	名 人 信 發					
		上陸英國軍情報二周不件	才一部 才四部	聯合國最高司令部					
				終報中央軍務局					

To: General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers
 From: Central Division Office, Tokyo
 Subject: Information Concerning British Occupation Forces
 C.I.O. No. 17 (G. 17)

終戰連絡中央事務局

1946

1. According to newspaper reports, two brigades of British forces are, within a month, to participate in the occupation of Japan land at Kure Naval Base, thereby participating in the occupation of Japan.

2. In order to facilitate the establishment of the British occupational forces, it is earnestly desired that relevant information relevant to the following items: at the earliest practicable date.

the General Services Office should be provided with

- a. Date of the landing of the British forces.
- b. port of disembarkation and the probable area of occupation of the British forces.

0270

終戰連絡中央事務局

c. Approximate number of the participating British forces.

d. Particulars of the constituent units ~~whether~~ (whether British, Australian or New Zealand forces) ~~units~~

e. Rank^s and name^s of the commanding officers and principal officers of the participating British forces.

f. ^{Any} other information which might ~~be~~ facilitate the ^{necessary} preparations.

For the President:

(S. Iguchi)

Chief of General Affairs,
Central Liaison Office

0271

17.12.35

(分類 A'10.0.2)

電 信 案	者ノ質問ニ答ヘ自分ノ知ル限リニ於テハソ 訪日中ノ陸軍長官ハタソシハ十日新聞記 往電第三五号ニ関シ	電送第 955 號	主管 松本部長
		昭和二十一年一月十四日	主任 松本部長
外 務 省		件名 蘇聯軍進駐ニ関スル件	宛 札幌事務局宛
		記録件名	發 思玉傳表

電信課長

發電係

記帳済

0273

(日本標準規格B5)

(分類 A'10.0.2)

第一
部
書
務
課

電 信 案	英軍ノ進駐ニ関スル件 情報提供方申入レ置キタル処 六日司令部了 詳細決定ノ上通報スベキ旨 回答越ヤ	電送第 200 號	主管 松本部長
		昭和二十一年一月十四日	主任 松本部長
外 務 省		件名 英軍進駐ニ関スル件	宛 本部 長
		記録件名	發 思玉總裁

電信課長

發電係

記帳済

連
1.1.8
書
課

0272

(日本標準規格B5)

聯側ニ於テハ日本占領ノ希望ヲ有セスト
答へ居シリ、御參考迄

電
信
案

外
務
省

中國代表部王武大佐との會談覺

(田部二一七六 陸軍總務部 朝海記)

五日、王武大佐來訪會談した覺左の通り

一、中國軍人捕虜五名の入院治療費日本側負担の問題(管理部長で研究中)

二、中國軍進駐問題 自分から、最近中國軍が日本占領に参加するかどうか

が現在如何なる段階にあるかと尋ねたところ同大佐は、占領に参加することは確定的である、その兵力は凡そ五千人程度となり、時期は目下補給問題等に関しワシントンで米側と外文交渉中で未定である、占領地域に付ては秘案があるを答へた

ので自分から、名古屋方面を中心とする地域であるといふ新聞報道を指摘したところ同大佐は敢て右を否定せず更に自分から中國軍の進駐は英海軍の

日本進駐と違を異にし、日本には中國人居住者が多数存在して居る關係上

これ等中國人が軍關係の身分を取得すると課税の問題、警察取締りの問題等に於て困難なる問題を生ずると思ひながら此の点は不合理的でないやう答へた

又、金に置き願ひたいと申入れたところ同大佐は御趣旨は了承して置くと答へた

三、課税問題

中國人が日本に於て營業稅等の税金を支拂はぬ点を指摘し率直に言

へばこの際中國人に全部帰つて貰ひたいが、残り以上は日本の稅權に即して貰ひた

い、これは日本の敗戦に關係がない、この点に付ては大藏省が總司令部と接觸中

であらうと思はれるから總司令部より何等相談があつた場合は公正に処置あ

りたいと述べたところ同大佐は代表部として無法な要求は支持しない、此の事

案を研究する僑務処は最近改米通の劉增華が去つて日本通の林定平が主

宰者となつたから斯う問題に付て日本側としても非常に相談し易いことと思

と答へた

配布先

終 連、總裁、總務部長、管理部長、經濟部長、政治部長

外務省、總務局、總務課長

(分類 P. 2. 0. 4)

電	信	案
外	務	省
本件ニ付テハ小室歸任上更ニ委細打合セルコト 下致度不カ元來カ地味ナリ故御合ニ願ヒ度イ 木村		

電	信	案
平	路	第
電送案 17018 號 昭和五年八月二日 時一分發 件名 宛 中国軍建設駐屯部ニ付 在大津 終戦連絡出張所 配録件名 發 在京 木村連絡官		
主管 文書課代理主任 電信課長 發電係 昭和五年八月二日 起草 記帳済		
松本連絡官へ 一 目下 處 中國軍、滋賀縣進駐、模範村無 二 長浜市、八月三十一日ニ決定シテ、本津津、栗本、津本		

A:1002

三十一

昭和二十一年十月一日

日本進駐豫定中國軍動靜

總務局總務課 中國班

配布先 大臣、次官、總務、總務、總務、條、情、情報、調、政、三、調資、管、管在、管在大、終總、終政、終政、終政治

中國陸軍第六七師（舊稱榮譽第二師）の日本進駐については最近國共紛争により同師が南通方面の警備に派遣せられたためその進駐時期等現在全然豫定がつかぬ状態であるが八月十五日十七日附中央日報の報ずるところによれば同師の海防より上海移駐に附いては駐滬辦事處主任彭國樞、副師長兼政治部主任饒賢第（前化學兵團）團長林冠雄氏等先發隊により準備を進められつつあつたが、第一團將兵二千六百は弗禮讓副團長指揮の下に八月四日九龍より上海に到着、第二團は戴堅師長、劉元伯團長指揮の下に八月十三日夜香港より上海に到着、第三團は八月十日海防を出發した趣にて同師の編成經過及び幹部略歴等につき同紙の報ずるところは左の通りである。

一 陸軍第六七師は舊榮譽第二師である。同師は民國三十二年一月一日中米中英平等條約成立を紀念し成都に於いて成立した。後民國三十四年春雲南前線において新二八師と混成して改編を行ひ、米式裝備を有する最優秀師となり陸軍第五三軍に隷屬した。其後印度、ビルマ戦線に轉戦し大いに戦功をたてたが日本軍降服後第一方面軍に隨ひ、南印に進駐し佛印日本軍の投降を受理した。本年四月日本占領参加の命を受け、改編して陸軍第六七師となつた。

同師團下には選抜された將兵は全國の負傷將兵をもつて組織され、榮譽團體を基幹とし第二五整訓處、新二八師をこれに合せ、兵團として陸軍第六七師第二團第三團とした。一第一團は前化學兵團である。

同師の全將兵はすべて抗戰中に名譽の負傷をしたものばかりで、少き者で二度以上多い者は副師長の如き六度も負傷してゐる。第二團劉團長は一、二、八、一、時頗部に激烈なる創傷を受けた。同師將兵の知識水準も極めて高く、文盲なる兵士には一、五、百、一、單字表一等を編製して教育に努力し、讀書力の強化に努めてゐる。本年四月日本占領受命以降は日文班の設立、獎學金制度を設け、軍除學校の目的に進んでゐる。

第六七師第一團の前身は軍政部軍兵總隊砲兵第二團で化學部隊である。同部隊は八一三事變（第二次上海事變）前南京において成立したもので、民國三三年以降印度、トルマ戰線において英、支聯合作戰に参加、三四年七月佛印國境に轉戰八月、廣東省に移駐し本年二月には廣東省における勤共戰に参加した部隊である。

幹部名及略歴

師長	劉 聲	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。
副師長	劉 鏡	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。
第一團長	彭 元	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。
第二團長	劉 冠	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。
駐滬辦事處主任	劉 伯	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。
其他不明	劉 鏡	湖南長沙人。中國兵學の權威で黃埔軍官學校、陸大卒業。軍令部第一總第一處處長を歴任。

抗戰中武勳拔群で六度も負傷を受けた。

政治部主任兼副師長

中國軍部中有名なる儒將である。

饒 第 三

刘元伯

上校團長。宇白緣。湖北人。
 軍官學校第七期及昆明作
 前國府警衛旅及第一集團軍第八師。三六師。群連營
 長。副團長及第一集團軍第八師參謀長。任。浙
 江。江西。及第一集團軍第八師參謀長。任。浙
 江。抗戰以來。參加。重傷。五度。現職。任。
 民國三年春。本部參謀主任。より現職に轉任。

(10)

昭和二十一年六月十八日

總務局總務課中國班

日本進駐中國兵獨立第三營訪問記
本稿は五月三日隨上海大公報より譯出した。憲兵獨立第三營は日本の大隊は實つての駐印憲兵隊で終戦後京滬地區に移駐一部は南京及上海日營管理處にも服務した經驗ある部隊である現在上海楊樹浦に於て待機訓練中で中國軍の名古屋區區進駐に附隨して渡日する機務委員長の命令を受けてゐる由である。

配布先 總務、總務、條、調、調三、情、營、管在大、終總、終政、終政軍、終政治、終經、終交、終設、終管

大公報 五月三日 大公報記者 王坪記
第一次日本進駐中國憲兵獨立第三營訪問記
定された。軍政部より命令に次の如く記されてゐる「蔣委員長の命により獨立憲兵第三營を占領軍と共に日本に進駐せしめる。四月末滬に上海に集合し出發の命を待つべし」
彼等は四月二十六日集合を完了し揚子江沿路中紡公司第二廠に宿營してゐる。
四月二十九日より二週間の短期訓練を開始した。若し準備不足或は交通の關係により赴日時期が多少遅延せばその短期訓練は延長される。
彼等の訓練は業務の檢討、日本の理解である。記者が昨日訪問した時は丁度ウドンとミーブ一碗の養生をとりてゐる最中であつた。食事は一般の兵隊と殆んど異りない。服装も一般の兵隊と全然變らず一着殊任務であるから生活裝備も又異なるだらう」と仰つた。考へは當らなかつた。當初「憲兵は二十數ヶ國もあるのに何故この部隊だけが派遣になるのだらう」といふ疑問もあつたがこれも營長高庚梅憲兵中校他中隊長分隊長の諸氏と語つてみてはつきりした。

3

高警長の言に依ると「この際には大卒在學中だつたものが二十
 數名ゐたが戦後大部分は復學し現在には高中生が最も多い」との
 事である
 日本投降後この部隊は印度、ビルマから柳州へ更に南京、上海
 地區に到り第一連は南京憲兵司令部に第二連は第三方面軍及び後
 勤司令部第三連は上海日僑管理處、第四連の一部は南京日僑管理
 處他の部分は米軍にそれぞれ勤務してゐた關係上日人管理及び米
 軍との協同に經驗があり、これが買入れたのも日本に派遣される事
 となつた原因の一つである
 日本での任務について問ふたがはつきりした返事を待たれな
 かつたがこれは聯合國の對日政策と密切なる關係があり、この政策
 は目下審議中であるためだと思ふ
 高警長個人の見解に依ると服務の對象は、中國軍占領軍に限ら
 れる、印度の場合と同じく中國軍の軍紀取締とその權益擁護であ
 る
 三に聯合國の對日管理にも参加し日本内政管理に参画する。日本
 は敗戦國であり印度は聯合國の一部であつた點から見てもその困
 難複雑なる事は印度の場合と異り大きい。
 憲兵第三營の氣風はM、Pと永い間共にゐた關係でもあらうが
 非常な米國氣質が浸透してゐる

4

高警長の言葉を借りれば「任途中は絶對嚴肅に休息中はゆつく
 りとし「小筆をゆるがせにせず大局をあくまらず」との事だ
 り。故に無軌道になつたり規律に反しない限りダンスも飲酒も出來
 る。この為か憲兵第三營から受けた感じは普通の憲兵から受ける
 嚴酷さはない。
 次に赴日の感想を問ふたところ彼等は任務重大を痛感して居り
 各聯合國軍と比較對象され日本人に與ふる印象の好悪は今後の中
 日兩國關係に必ず影響する。故に我々は日本を知るため現在日本
 日兩國關係に必ず影響する。故に我々は日本を知るため現在日本
 研究者、國際問題研究家を招聘し講義をきいてゐると私の辭去
 する際高警長は語つた
 最後に高警長は語つた
 第一連 趙 璋
 第二連 姜 忠
 第三連 李 佛
 第四連 趙 璋
 第五連 姜 忠
 第六連 李 佛
 第七連 趙 璋
 第八連 姜 忠
 第九連 李 佛
 第十連 趙 璋
 第十一連 姜 忠
 第十二連 李 佛
 第十三連 趙 璋
 第十四連 姜 忠
 第十五連 李 佛
 第十六連 趙 璋
 第十七連 姜 忠
 第十八連 李 佛
 第十九連 趙 璋
 第二十連 姜 忠
 第二十一連 李 佛
 第二十二連 趙 璋
 第二十三連 姜 忠
 第二十四連 李 佛
 第二十五連 趙 璋
 第二十六連 姜 忠
 第二十七連 李 佛
 第二十八連 趙 璋
 第二十九連 姜 忠
 第三十連 李 佛
 第三十一連 趙 璋
 第三十二連 姜 忠
 第三十三連 李 佛
 第三十四連 趙 璋
 第三十五連 姜 忠
 第三十六連 李 佛
 第三十七連 趙 璋
 第三十八連 姜 忠
 第三十九連 李 佛
 第四十連 趙 璋
 第四十一連 姜 忠
 第四十二連 李 佛
 第四十三連 趙 璋
 第四十四連 姜 忠
 第四十五連 李 佛
 第四十六連 趙 璋
 第四十七連 姜 忠
 第四十八連 李 佛
 第四十九連 趙 璋
 第五十連 姜 忠
 第五十一連 李 佛
 第五十二連 趙 璋
 第五十三連 姜 忠
 第五十四連 李 佛
 第五十五連 趙 璋
 第五十六連 姜 忠
 第五十七連 李 佛
 第五十八連 趙 璋
 第五十九連 姜 忠
 第六十連 李 佛
 第六十一連 趙 璋
 第六十二連 姜 忠
 第六十三連 李 佛
 第六十四連 趙 璋
 第六十五連 姜 忠
 第六十六連 李 佛
 第六十七連 趙 璋
 第六十八連 姜 忠
 第六十九連 李 佛
 第七十連 趙 璋
 第七十一連 姜 忠
 第七十二連 李 佛
 第七十三連 趙 璋
 第七十四連 姜 忠
 第七十五連 李 佛
 第七十六連 趙 璋
 第七十七連 姜 忠
 第七十八連 李 佛
 第七十九連 趙 璋
 第八十連 姜 忠
 第八十一連 李 佛
 第八十二連 趙 璋
 第八十三連 姜 忠
 第八十四連 李 佛
 第八十五連 趙 璋
 第八十六連 姜 忠
 第八十七連 李 佛
 第八十八連 趙 璋
 第八十九連 姜 忠
 第九十連 李 佛
 第九十一連 趙 璋
 第九十二連 姜 忠
 第九十三連 李 佛
 第九十四連 趙 璋
 第九十五連 姜 忠
 第九十六連 李 佛
 第九十七連 趙 璋
 第九十八連 姜 忠
 第九十九連 李 佛
 第一百連 趙 璋
 隊員の平均年齢は二十四歳四川人が最も多い

従来この部隊はM.P.とともに印度で任務を担じてゐたのである。
先の陸軍兵隊であつて現在の第一、二、三、四中隊は先の第一、
二、三、四中隊である。此の部隊は民國三十二年六月昆明で編成
された。

第一、二連は憲兵第三團及び十三團より選抜された者。

第三。四連は青年連隊征軍より徵用。訓練を受けた者よりあつて
ある。

彼等は「第一。二連は右衛門衛隊で三。四連は警備局が参り」と
語つた。

6

~~(8)~~

連合軍の進駐状況関係